

◎『単元終末の授業を仕組む上でのポイント』

① 魅力的な言語活動の設定 ② 「活動Ⅰ→中間交流→活動Ⅱ」の流れ ③ 「言語面」と「内容面」からの振り返り

1 言語活動の提示

◎児童が主体的に取り組むことができる言語活動を設定する。

【ポイント】

※言語活動の設定は、その活動を行う目的や場面、状況をはっきりさせることが大切です。

※「ALTの先生に、自分の好き嫌いを伝えながら、昼休みに遊ぶことを決めよう。」や「同じ好きなものや嫌いなものがある仲間を見つけよう。」など、『児童が英語を使って達成すべき課題（タスク）』を言語活動として設定すると、主体的に取り組みやすくなります。

2 活動Ⅰ

◎思いきって、まずは活動をやらせてみる。

【ポイント】

※言語活動を行う前に、使わせたい言語材料を機械的に練習させるのではなく、まずは活動を思いきってやらせてみる。つまり、言語活動を行いながら、習得をさせるという意識が大切です。

3 中間交流

◎課題を達成させるために、指導を行う時間（中間交流）を位置付ける。

【ポイント】

※児童のよい姿を紹介し、課題達成に向けての方向性を確認します。

※課題を達成させるために、児童の学習状況に応じて、『慣れ親しみ（外国語活動）』や『定着（外国語科）』が不十分な言語材料や「身に付けさせたい態度や技能」を指導する時間にします。

※「こんなことを言いたかったけれど、英語で言えなかったこと」の解決策を共有する時間にします。

4 活動Ⅱ

◎「中間交流」で指導したことを活かして、活動を行わせる。

【ポイント】

※児童の言語活動を観察したり、教師も児童と一緒に言語活動を行ったりすることで、「中間交流」で指導したことができているかを見届けます。

5 振り返り

◎「言語面」と「内容面」で振り返りを行わせる。

【ポイント】

※「慣れ親しませたい（定着させたい）言語材料の使用」や「身に付けさせたい態度や技能に関して工夫したこと」（言語面）と「伝えられたことや分かったこと」など（内容面）について振り返りをさせます。

「外国語活動・外国語科」の授業を振り返ってみよう！（当てはまるものに☑）

目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を設定していますか。

「活動が先、指導は後」という意識をもって授業を行っていますか。

中間交流では、課題達成のための方向性を確認し、「言いたかったけど、言えなかったこと」を既習表現を用いて表現する指導を行っていますか。

授業のねらいに応じて、「言語面」と「内容面」の振り返りを行っていますか。